令和８年度　広島県病害虫発生予察情報　予報第10号（果樹）

令和８年９月17日発表（対象期間：令和８年9月17日～10月下旬）

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報　検索

掲載アドレス↓

https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
二次元コードはこちら　→

ひろしま病害虫情報　メルマガ登録はこちら



お問い合わせ先
広島県西部農業技術指導所　植物防疫チーム
〒739-0151　東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）

※次回の予報発表は令和９年３月です。

1　果樹全般病害虫について

①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

現況：並～やや多　予報：**やや多**

予報の根拠

（＋）:多発要因
（±）:平年並
（－）:少発要因

●県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、９月第１又は第２半旬の時点で、各地で並～やや多い結果となっています。**地域差が大きいため、表１を参考にしてください。**

●今後気温の上昇に伴い、飛来が増加する可能性もあるため、ほ場の定期的な巡回を心がけましょう。

※最新のフェロモントラップ調査データは、ひろしま病害虫情報に公開しますので、防除対策の参考にしてください。





左からチャバネアオカメムシ、
ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

表１ 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（５月第１半旬～９月第１又は第２半旬）

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	状況	平年[注1]	多発年[注2]	多発年以外[注3]
呉市蒲刈町田戸	337.0	やや多	274.6	863.9	22.0
尾道市瀬戸田町高根	62.9	やや多	160.6	444.6	39.0
福山市神辺町下竹田	434.5	やや多	420.2	1167.4	99.9
庄原市高野町下門田	1763.0	やや多	571.3	1801.7	44.0
庄原市東城町内堀	528.0	やや多	265.0	784.4	42.3
東広島市安芸津町	988.9	並	1247.0	3304.7	365.1
世羅郡世羅町本郷	1653.8	やや多	452.9	983.6	212.2
三原市大和町大草[注4]	135.4	-	20.1	-	-
三次市作木町香淀[注4]	821.3	-	53.4	-	-
世羅郡世羅町京丸[注4]	873.2	-	228.3	-	-
山県郡北広島町苅谷形[注4]	49.3	-	1.0	-	-

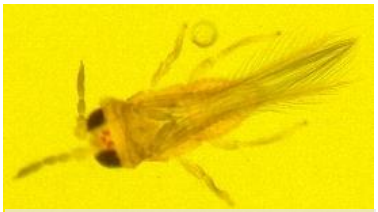
注1)　各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す。
注2)　多発年とは、平成28年以降で、注意報を発表した年（令和２、４、６年）の平均値を示す。
注3)　多発年以外とは、平成28年以降で、令和２、４、６年を除いた年の平均値を示す。
注4)　令和７年からの調査開始のため、平年には令和７年の誘殺数を記載する。

1　果樹全般病害虫について

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害



チャノキイロアザミウマ
（体長0.8mm程度）

●チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。

●発生ピークの予測は、第７世代成虫は９月19日、第８世代成虫は10月13～20日で、**防除適期は、発生ピークの７日前からピーク当日**です。

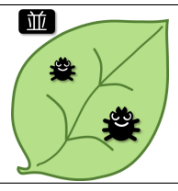
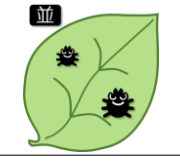
※ 表２を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表２　チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第7世代	第8世代
平年より高い（+1℃）	9月19日	10月13日
平年並	9月19日	10月16日
平年より低い（-1℃）	9月19日	10月20日

※生口島アメダスデータに基づく

2-（1）　かんきつ病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病（果実）			●発病した葉や枝は伝染源となりますので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。 ●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除しましょう。
黒点病（果実）			●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●秋期に降雨が続く場合は追加防除を実施しましょう。 ●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。
ミカンハダニ（葉）			●果実への寄生により、外観品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。 ●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
ミカンサビダニ（果実）			●裾なり、内なりの果実での発生に注意し、発生園では９月下旬～10月上旬に防除を行いましょう。
ナシマルカイガラムシ（果実）			●移動性が低くほ場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺します。 ●マシン油乳剤による越冬期防除の準備を行いましょう。
イセリヤカイガラムシ（枝）			

2-（2） かんきつ病害虫の現況と予報（詳細）

①かいよう病	現況	並	予報	並

予報の根拠	
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●巡回調査での発病果率は、レモンで3.7%（平年3.5%）、ネーブルで0%（平年1.5%）であり、合計2.9%（平年3.1%）と平年並の発生でした（±）。 ●発生地点率は、レモンで66.7%（平年50.6%）、ネーブルで0%（平年39.6%）であり、合計51.9%（平年48.4%）と平年並の値でした（±）。 ●向こう１か月の降水量は、平年並の確率が40%です（±）。

【防除上の注意事項】

●発病した葉や枝は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。

●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。

●ミカンハモグリガ食害痕から感染し、果実へ伝染する恐れがあるため、食害された夏秋梢は切除しましょう。

●銅剤散布に当たっての注意事項

・マンネブ剤、マンゼブ剤は混用せずに散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上空けます。

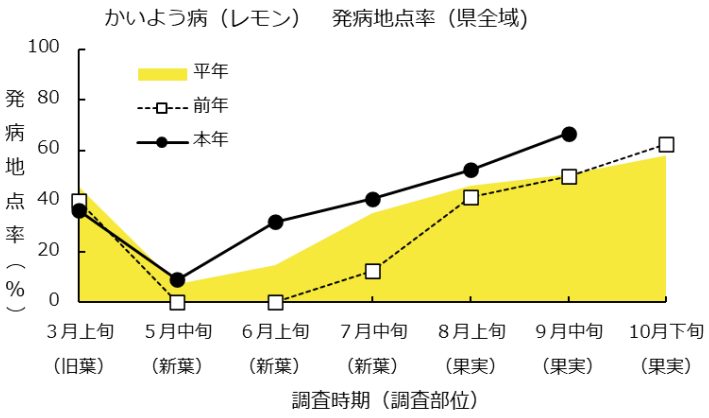
・無機銅剤（コサイドなど）の散布を行う際には、クレフノン（希釈倍数:200倍）を加用します。

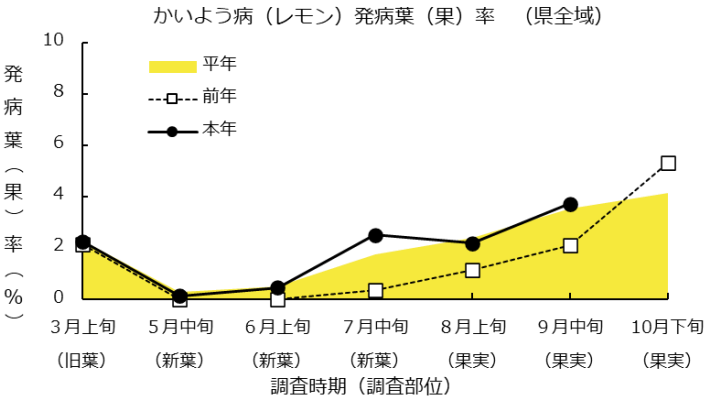
・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意しましょう。

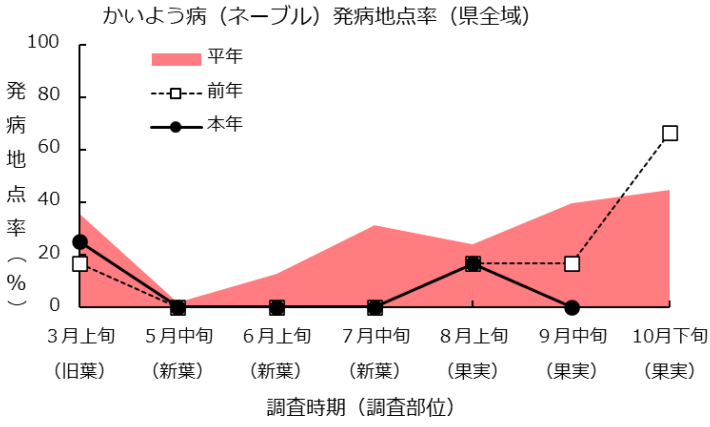
レモン発病果

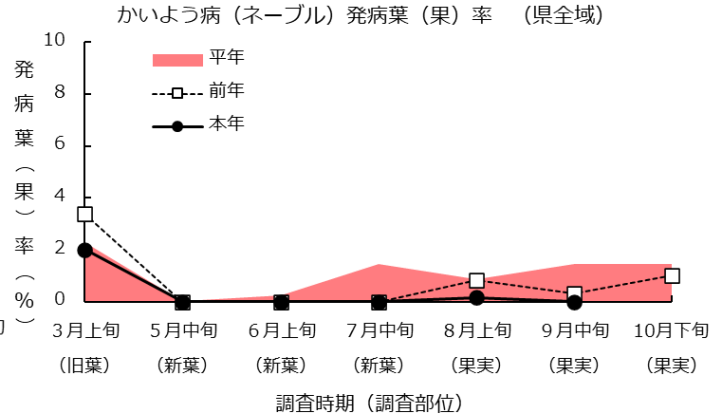


【巡回調査データ】※県内全域まとめ









②黒点病	現況	並	予報	並

予報の根拠	
（＋）:多発要因 （±）:平年並 （－）:少発要因	●巡回調査での発病果率は、ウンシュウは17.2%（平年13.2%）、レモンは23.3%（平年20.2%）、ネーブルは4.3%（平年10.1%）で、合計18.2%（平年16.0%）と平年並の発生でした（±）。 ●一部の地点で発病果率及び発病度が高くなっています（＋）。 ●発生地点率は、合計82.0%（平年77.7%）と平年並の値でした（±）。 ●向こう１か月の降水量は、平年並の確率が40%です（±）。

【防除上の注意事項】

●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。

●気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。

●秋期に降雨が続く場合は追加防除を実施しましょう。

●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。

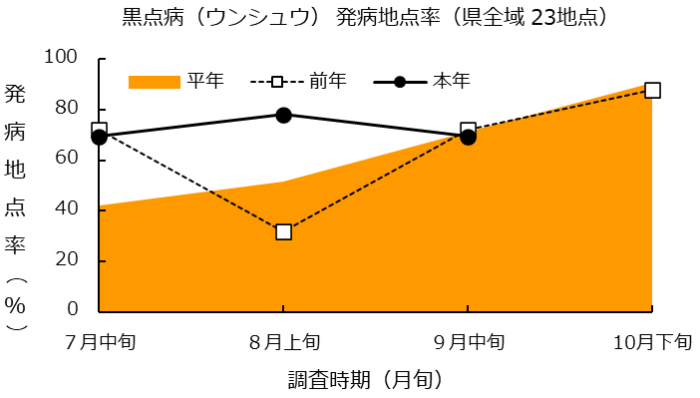
ウンシュウ発病果

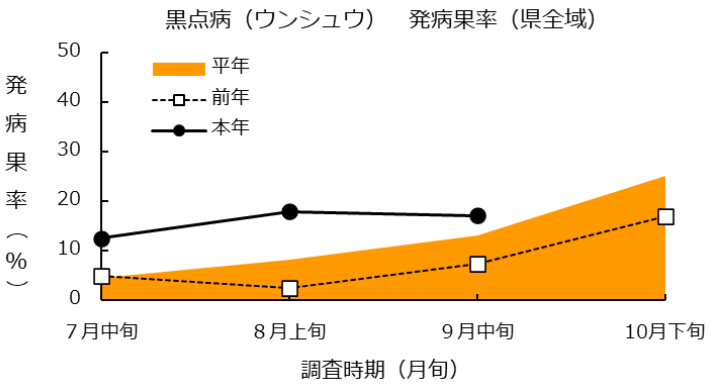


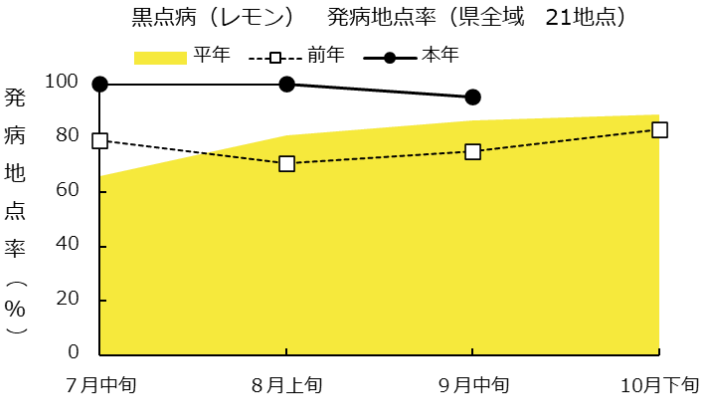
レモン発病果

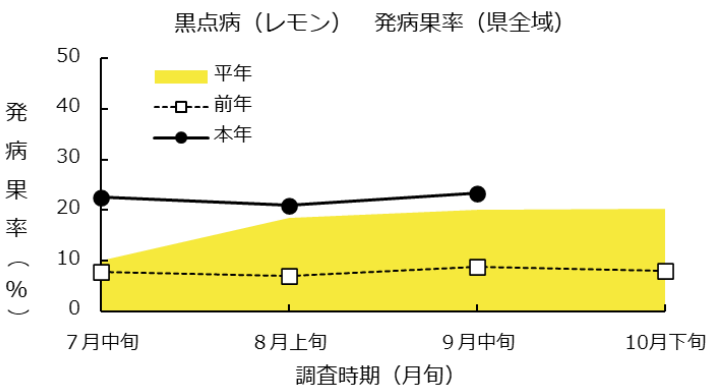


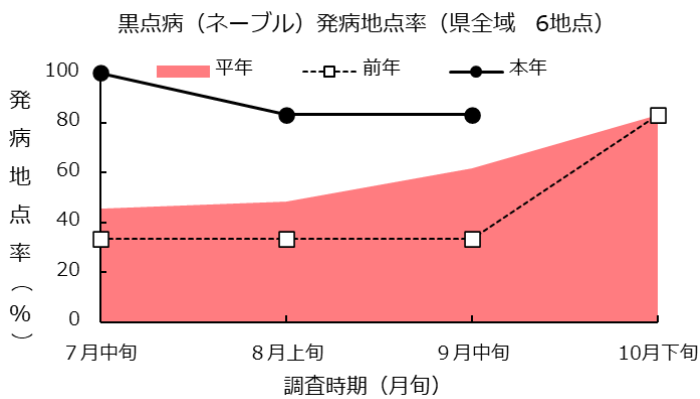
【巡回調査データ】

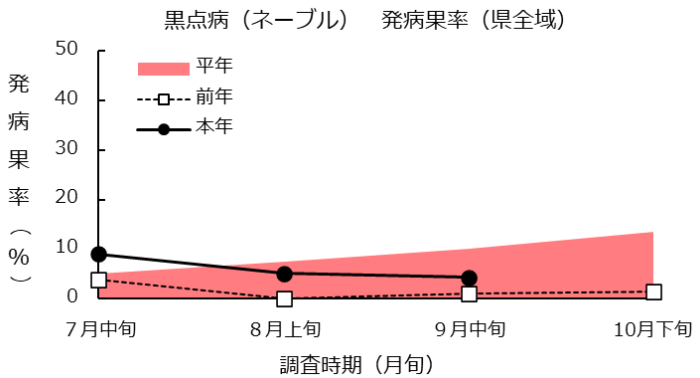












かんきつ病害虫の現況と予報（詳細）

③ミカンハダニ

現況	並	予報	やや多

予報の根拠

（＋）:多発要因
（±）:平年並
（－）:少発要因

●巡回調査では、発生地点率は26.1%（平年27.5%）、寄生葉率は5.0%（平年4.0%）で、平年並の発生でした（±）。
●一部の地点で寄生葉率が高くなっています（＋）。
●向こう１か月の気温は平年より高い確率が60%（＋）、降水量は平年並の確率が40%です（±）。

【防除上の注意事項】

●果実への寄生により、外観品質を損なうため、基幹防除を徹底しましょう。
●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
●薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。

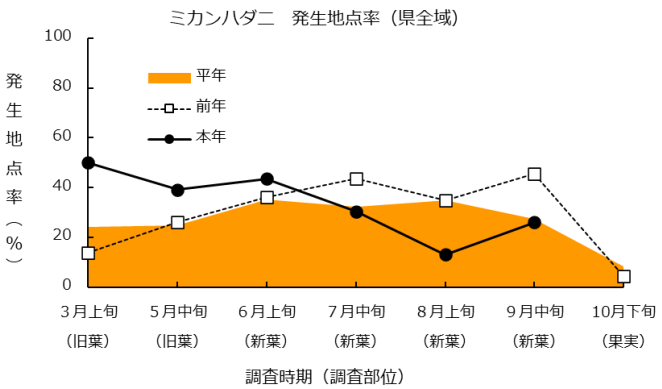


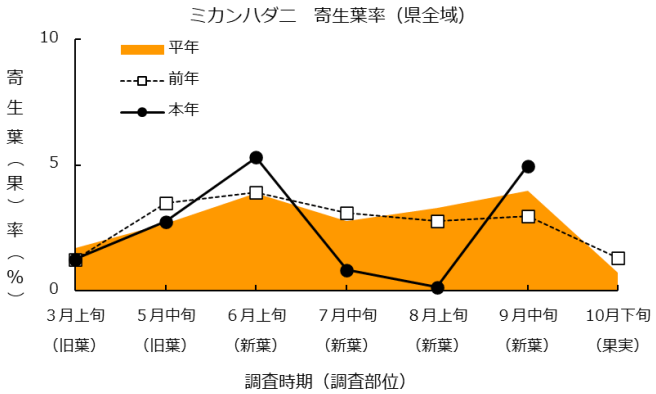
雌成虫
（体長0.5mm程度）



葉のかすり症状

【巡回調査データ】





④ミカンサビダニ

現況	並	予報	やや多

予報の根拠

（＋）:多発要因
（±）:平年並
（－）:少発要因

●巡回調査での発生地点率は4.3%（平年9.4%）、寄生果率は、0.1%（平年0.4%）と平年並の発生でした（±）。
●調査外で被害果が散見されています（＋）。
●向こう１か月の気温は平年より高い確率が60%（＋）、降水量は平年並の確率が40%です（±）。

【防除上の注意事項】

●肉眼での成虫の確認は困難であり、気づかないうちに被害が拡大する可能性があります。９月下旬～10月上旬の基幹防除を徹底しましょう。
●特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意しましょう。

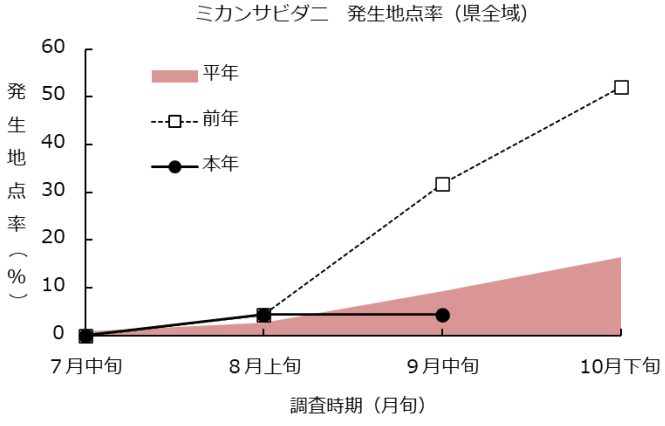


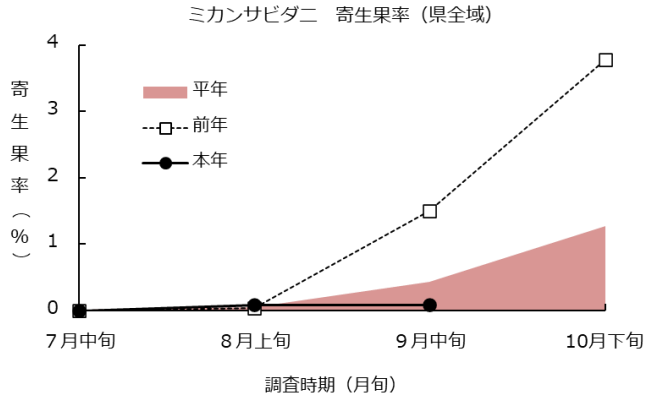
虫体（体長
0.16mm程度）



ウンシュウ被害果

【巡回調査データ】





3　中国地方１か月予報

（広島地方気象台９月10日発表、９月12日から10月11日までの天候の見通し）

●暖かい空気に覆われやすいため、向こう１か月の気温は高いでしょう。
●天気は数日の周期で変わりますが、期間の前半は平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
●向こう１か月の平均気温は高い確率が60%、降水量は平年並の確率40%です（図１）。
●週別の気温は、１週目、２週目は高い確率60%、３～４週目は高い確率50%です（図２）。

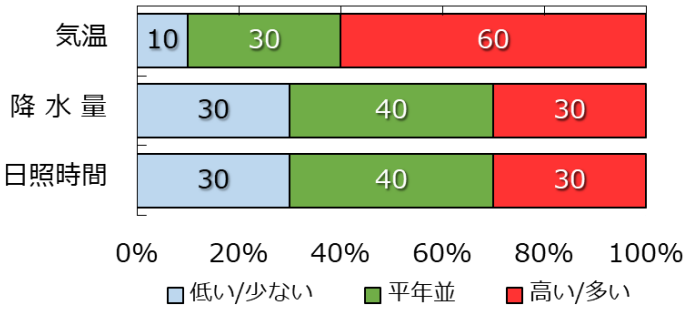


図１　向こう１か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率（%）

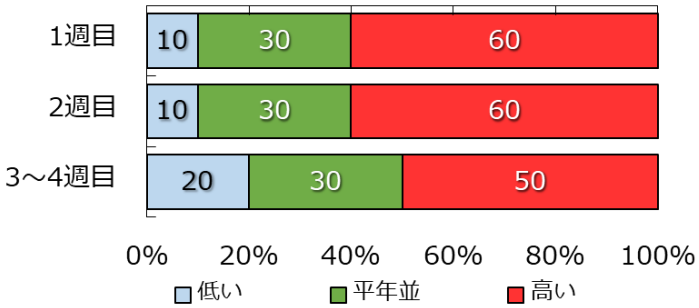
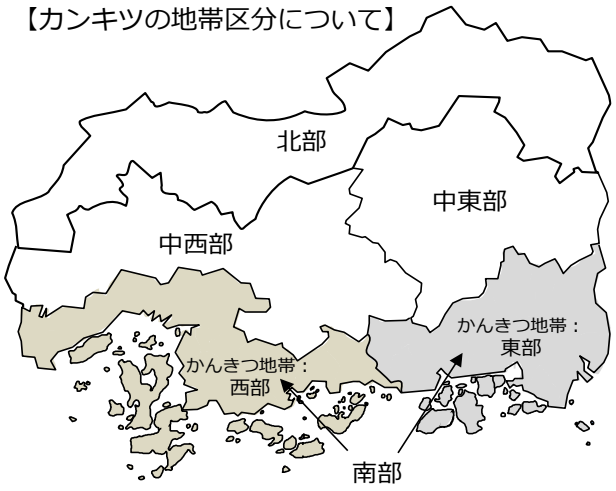


図２　向こう１か月の気温経過の各階級の確率（%）

4　用語説明について

【カンキツの地帯区分について】



西部：竹原市以西の沿岸島しょ部

東部：三原市以東の沿岸島しょ部

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の５階級に区分しています。区分は、原則として過去１０年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

「多」　：　１番目（最多年）と同程度以上
「やや多」：　２～３番目と同程度
「並」　：　４～７番目と同程度
「やや少」：　８～９番目と同程度
「少」　：　１０番目（最少年）と同程度以下